

辻康介の体感音楽史 中世のソルミゼーションとルネサンス旋律論 Vol.2

2017年9月3日(日)10:30-18:30
@スタジオサンモール小会議室



2月に続き、第2回目。
会場は前回と同様、サンモール一番町商店街にある、
魅惑の迷宮、スタジオサンモール小会議室。

今回から、基礎講座が開始されます。
ときどき迷宮に入り込むようなテーマですが(笑)。
さて、今回はどうなるでしょうか。

コマ●：[基礎講座] 六音音階の名称と教会旋法(入門)(10:30-12:30)



たくさんの新しい方をお迎えして、基礎講座がスタート。

中世のドレミの歌を当時と同じように口頭伝承してみたり。

日本古謡のさくらさくらなど、参加者に身近な旋律を中世の音階で歌ってみる時間があったり。

参加者のうちにあるものを生かしながら、講座は進んでいきます。

コマ②：偉人パレストリーナの多声音楽を六音音階で味わう(13：30-15：30)



パレストリーナの Sicut Cervus を取り上げました。
 新兵器を導入し、六音音階で用いる「Mutatio」を解説中の辻先生。
 まったくはじめての方もいらしたので、ダイジェスト的な内容になりました。

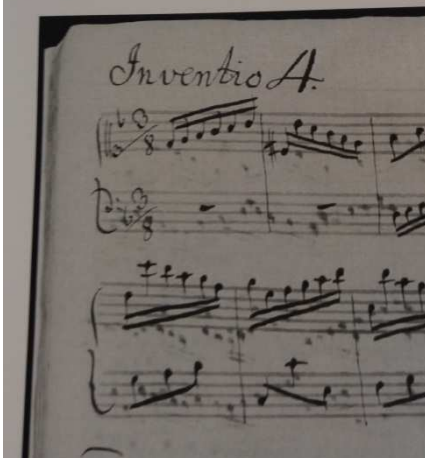
コマ③：バッハ「インヴェンション4番 d-moll」を紐解く(16：00-18：00)



六音音階を用いて、人の声だけで歌いながらのアプローチ。

2 声の曲を、4 声で歌ってみたりして、旋律が背景に持つであろう響きについても、体感してみました。

バッハが言う「カンタービレな奏法」に思いを馳せつつ。脳トレ。。



今回、辻先生はたくさんの秘密兵器を携えていらっしゃいました。

いろいろな視点と感覚でとらえられる工夫が満載。「体感音楽史」ますます進化中です。

次回は 11 月 26 日(日)。
 皆様のご参加をお待ちしております。